

■ 2025年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	数学(理系)
----	--------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

出題数は昨年通りだが、全体の難易度はやや易しくなり、計算の分量は減少した。文系と2問の共通問題が出題されており、理系の受験生にとっては解きやすい内容だった。

〈特記事項・トピックス〉

新課程入試ということで、「整数」をテーマとした出題に注目していたが大問2、4で整数に関連した出題がなされた。頻出分野である「確率」、「微積分」が今年も出題された。大問4(2)の議論は名大らしい出題といえる。

〈合格への学習対策〉

名大理系の数学は頻出分野である「確率」、「微積分」の対策が非常に重要といえる。標準的な問題をミスなく解けるようにし、過去問を通して名大独特の出題内容や計算量(例年は大変)に対応できるように訓練を積んでおきたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅲ	微分法(関数の増減)、極限	微分による関数の増減の把握をする問題。(1)は抽象的な関数での議論が求められ、慣れていない受験生にとっては難しいと思われる。(3)の計算はやや煩雑なので丁寧にミスなく計算できたかがポイントである。	標準
2	記述	A	整数	因数分解により積の形を利用する整数問題。因数分解に気づくことは難しくないが、 $a+b$ と $a-b$ の偶奇が一致することを利用できるかで差がつくと思われる。(2)は(1)と同じ議論を抽象的に行えるかどうかポイントになる。	やや易
3	記述	Ⅲ	積分法(体積)	(1)の計算で弧度法の理解が問われている。(2)では平面 $z=t$ での断面を考えるが、その断面積に(1)の結果が利用できる。また、積分計算は四分円の面積を利用できると簡単になる。	標準
4	記述	A	確率、整数	コインを無作為に選び、そのコインと隣接するコインを裏返す試行を繰り返す問題。「コインを選ぶ」行為と「コインを裏返す」行為を混同しないことと、混同しないように記述できるかが題意把握のポイントになる。(2)は結果だけでなく、適切な議論が求められると思われるが、受験生にとっては難しい問題となっただろう。(3)では(2)の結果を利用して、状況を把握できるかが重要となる。0が偶数に含まれることに注意したい。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。